



1月1日昼食風景

2025年1月1日の昼食は、お正月といえば、やっぱり“おせち料理”です。きれいに盛り付けられた手作りおせちを前にカメラを向けると皆様、笑顔を見せてくれます。おせち料理をいただくことは歳神様と食事をともにし、『福を招き災いを打ち祓う』と云われています。今年も、おせちを食べて災いを吹き飛ばしましょう。



普通食



ソフト食



昨年、作ったしめ縄リース居室前に飾っています



入居者様のお部屋の入口・お部屋の中にしめ縄リースを飾り、新しい年を迎えました。

白寿荘たより

2025年2月号

Vol.245



新年お餅つき

お誕生日おめでとうございます!

1月



孝雄様



正様



ナツ子様



文子様



照子様



保彦様

生江特別養護老人ホーム 白寿荘

社会福祉法人リベルタ ホームページ <http://www.liberta.or.jp/>

編集責任者 仙石 正哉

白寿荘たより ネット版 <http://www.liberta.or.jp/hakujuu/category/hakujuu-tayori>

おもちつき

白寿荘恒例『お餅つき』が、新年1月9日に開催されました。昨年末、インフルエンザが蔓延し体調を崩された方が数人おられ、各フロア間の移動も中止として、広がりが出まるとの待ちました。年明けにはインフルエンザも収まり、お餅つきができるようになりました。杵を持つ手が不安な方は職員がいっしょに杵を持ち、お手伝いさせていただきました。「ひとりでも大丈夫!」と言われる方は、力強く杵を振り下ろされていました。



職員もガンバリました



* 餅つきの由来・歴史 *

日本には稲作信仰というものがあり、稲は「稲魂」や「穀霊」が宿った神聖なものだと考え、崇められてきました。稲から採れる米は人々の生命力を強める神聖な食べ物であり、米をついて固める餅や、米から醸造される酒はとりわけ力が高いとされています。

そこで、祝い事や特別な日であるハレの日に、餅つきをするようになりました。

餅つきは一人ではできないため、皆の連帯感を高め、喜びを分かち合うという社会的意義もあります。そして、お正月には「鏡餅」、桃の節句には「菱餅」、端午の節句には「柏餅」というように、行事食としても定着していきました。とりわけ日本の行事文化の大黒柱であるお正月はお餅が重要な役割を果たすので、年末に餅つきをするようになったそうです。

